

### 全国の首長に聞く

#### シリーズ 第1弾

### 南砺から日本を元気にする男



田中市長は「熱く」「パワフルで」「人が大好きな」男です。その力強い日々の活動は、遠く離れた埼玉からもインターネットなどで知ることが出来ます。毎日自分もフェイスブックで拝見しています。

いま、日本は混迷の中にあり、各市町村も様々な課題でもがいております。南砺市の行く末について、最高責任者として日々下してきた決断は、重く、時に辛いものもあったと思います。しかしそれは故郷を心から愛し、子どもたちにツケを回さない持続可能な社会を創るために真剣に考え、情熱を持って地道に取り組んでいるからこそ出来ることです。田中市長はまさにそのようなリーダーだと思います。

市民の皆様と共に、旧町村時代から続く古き良き伝統文化を大切にしつつ、新しい南砺市のまちづくりにチャレンジしてきた行動力。それらを内外に力

### 埼玉県本庄市長 吉田信解氏



強くPRしてきた情報発信力。何より人とのつながりを大切にしている真面目な姿勢。これらは市長1期目にしてすでに地元のみならず全国からも高く評価されています。私自身も

圧倒される思いであり、田中市長に負けずに、埼玉の地で頑張ろうという勇気をいただいております。

これからの日本の新しい時代を創るのは、国政だけでなく、むしろ地方の挑戦、チャレンジだと確信します。南砺が生んだ逸材である田中市長には、ぜひ今後とも故郷から全国を元気にするパワーを発信し続けていただきたい。南砺市民の皆様のご支援を、私からも宜しくお願い致します。

### 田中幹夫の素顔に迫る

#### シリーズ 第1弾

### 未来を拓く“種”を蒔きつづけてほしい



幹夫君が、4年前に南砺市長選に出馬を表明した時、私にとっては祖父に当たる田中孫作、伯父に当たる田中盛好の姿がダブって見えた。幹夫君にとっても、それぞれ曾祖父であり祖父に当たる二人の先人に共通するのは、いずれも時の政治に果敢に立ち向かった行動力があつたことである。田中孫作は、庄川流木事件における電力促進派の闘志として名をなし、時代を見据えた眼力は今も語り継がれている。また、田中盛好は、利賀村長3期目に臨む現職と激しい選挙戦を通して、小さな利賀村に議会制民主主義を確立した功労者であった。幹夫君が二人のDNAを引き継いでいることは、誰も疑うことができない。

さて、幹夫君は、小さい時から自然と人情豊かな村の中を縦横に走り回る活発さと、庶民的で誰からも好かれる人柄をもった子どもであった。先日、富山国際大学の私の学会で、幹夫君に講演を依頼したのであるが、開口一番、「“ごんべ”が種まきや、カラスがほじくる…」と切り出した。この歌は、小学2年生の頃に私が教えた歌である。私は、歌を通し

### 富山国際大学子ども育成学部教授 水上義行氏

て「いくらカラスがほじくっても、種を蒔かなければ実りはない。根気よく蒔き続けよう。同時に、カラスに負けないように強力な仲間を増やせ」と、話したことを覚えている。その後、「“ごんべ”には、“田吾作”という仲間が助っ人となりカラスを追いかけ」結果として、実りをもたらす歌である。

この歌を持ち出す幹夫君の姿は、教師冥利につきる思いであるが、教師の一言の重みを教えられた気がした。一期目の市政を、多くの南砺市民に親しまれながら終えようとし、多くの仲間を支えられながら、新たな“種蒔き”に挑む幹夫君が“ごんべ”にもダブって見える。混迷する時代の舵取りは、火中のクリを捨てるような難儀であるが、時代に飛びこむ幹夫君に大きなエールを送りたい。

(南砺市長田中幹夫氏は、私の教え子であり本家のあんちゃんである。私の家は、先祖も4代目の父も田中家から来ていることや、小さい時から、隣り同士で成長を見てきたこと、また、兄弟以上の付き合いをしてきたことから、「幹夫君」と称して拙文を綴ったことをお許し願いたい。)

シリーズ 対談

南砺の里から  
農を変える。  
主は、Culture(文化)。

若手農家との  
意見交換会



**田中幹夫(以下:田中)**：私は南砺市の新たな政策として、なんとエコビレッジ構想※を掲げています。そもそもカルチャーの語源は土、そして文化です。ベースに農業や文化があり、その後に観光、ツーリズムと続くわけですが…。

南砺市から農業政策を変えられないのではないかと、思ひ、本日は農業従事者の方にお集まりいただきました。まずは、みなさんの取り組みを教えてください。

**吉田 剛(以下:吉田)**：私の仕事は米、野菜づくりと販売です。東京の取引先が多く、ニーズに合った商品を企画・提案し、栽培から販売まで行います。おかきなどの商品づくりにも力を入れています。

**田中**：東京とのつながりはどのように？

**吉田**：父の時代からの取引先が半分、もう半分は紹介や飛び込み営業などです。例えば、食材宅配のオイシックスや、六本木農園。表参道にあるブラウンライス・カフェは知人の紹介ですね。

美味しく安全であれば売れる時代もあったけれど、今は商品になるものを作らないと。だから、スーパーや仲卸さん、市場も訪ねてリサーチしています。

**橋爪央樹(以下:橋爪)**：私は主に、野菜の苗づくりをしています。花壇苗や田んぼも少々。以前は某量

販店に勤務していました。そこでは園芸用品を担当していて、安ければ品質が低くてもどこからでも仕入れていました。でも、地域の量販店には、地元で作ったものを販売してほしいと思ったんです。

就農後は、福野の野菜直売所「ふくの里」の会員さんに野菜苗を提供し、育った野菜を直売所で販売できるような地産地消を心がけています。今は、自分たちでどこまでの面積を耕せばいいのか、その加減が難しくして…。

**坂井 晋(以下:坂井)**：私は、有機野菜、野菜の苗を生産しています。販売は、東京はあまりターゲットにしません。地元の若い女性たちに食べてほしいと思っています。苗づくりは、家庭菜園がもっと増えれば、と。思っています。

**田中**：若い人への販売は、直接取引を？

**坂井**：はい。お店にはほとんど出していないです。だから、今の作付面積がちょうど良いです。

**田中**：なるほど。石村さんは？

**石村修子(以下:石村)**：私は、春は花壇苗、冬はシクラメンの栽培をしています。

昔は作れば売れる時代でしたが、今はいいものを作って、さらにどう付加価値をつけるか、どう楽しみ方を提案できるかが勝負です。

私は生産+加工+サービスを提供する“第6次産業花農家”をめざしています。例えば「幸せが根付

く」鉢植えのギフトセットなど、ちょっとした物語を提案します。花づくりは夢を売る仕事だと思うので。

**田中**：ありがとうございます。今の農業は、やはり耕作面積やキャパシティなどが気になりますね。日本のオーソドックスな農政というのは、営農組合、機械化、そして面積拡大という流れです。さらに、補助金が出るからと高価な農業機械を買くと、規模を拡大せざるを得ない…。

**石村**：花栽培の盛んな愛知県では、大会社ほど倒産しているんですね。富山県内の園芸は小規模だから生き残っているのでしょうか。

**田中**：以前、フラワーロードの仕事をしていた時に、砺波市の園芸店が富山県中の花を供給していたことを知りました。

**橋爪**：砺波地区の青年農業者の協議会へ行くと、大規模化を進めている農家さんが多いです。

農業のイメージと価値観の変化

**田中**：ここ数年で、我々消費者の価値観が大きく変化しているような気がします。

無農薬というだけでなく、野菜の味や生産者を気にするようになってきた。

**橋爪**：野菜や農家のイメージも変わり、消費者のニーズもますます多角化していると感じます。

**田中**：例えば、ラーメンチェーン店においても、以前は野菜を中国から大量に仕入れていたのが、近ごろは野菜にこだわりはじめています。東京へいくと、“農業のこせがれ”というのが良いイメージのようですね。

**吉田**：昔は「農家」という職業を

対談者  
一言  
紹介



吉田 剛

有限会社さくさく村。  
おいしい米・野菜づくりに携わり、自ら販売も手がける。  
(南砺市才川七)



橋爪 央樹

橋爪園芸。  
砺波地区農業青年協議会長。  
(南砺市苗島)



人に言うのが少し恥ずかしく感じただけで、TV番組の「DASH村」が始まり、10数年経ってから自分たちの意識も変わったと思います。以前は考えられなかった、産地直送のネット販売という市場もできました。

**田中：**個人の農家でも販売できる時代になったのですね。

**吉田：**やはり適正な耕作規模を知り、さらに人材を活用できる経営者が生き残るのではないのでしょうか。

**田中：**南砺市としては、中身の濃い仕事や美味しい作物を作ること、市場開拓などに関する助成を行いたいと思っています。

例えば、観光のアクションプランにしても、今までは宿、バス会社、温泉、お土産屋で考えていたプランに、食の専門家を交えるといい刺激になるのではと。さらに人が人を呼び…。



**吉田：**北海道はそういった活動が盛んですね。

**田中：**農業機械の補助金より、そういった活動へのシフトが必要ですね。最初から、体験農場やグリーン・ツーリズムではないのかもしれませんが。

**吉田：**人工的に作られたものより、自然とできたものの方が魅力的ですよ。

### 地産地消ビジネスは可能か

**田中：**長野県佐久市は、市内で採れた作物を病院に納めています。そうすると作る側、食べる側にも

健康への意識が高まり、いいサイクルが回るようです。

**橋爪：**ふくの里でも、学校給食用に野菜を供給しています。

**田中：**病院、学校、福祉施設など、市内の作物でまかなえる部分はしていきたいですね。

ご飯にしても、富山県は兼業農家を推奨したから、米農家が多いんですよ。

また、福井県の食育では、栄養士さんとのふれあいを大切にしています。そして、美味しいお茶を淹れる、美味しい味噌汁を作る、美味しいお米が炊ける、この3つのことを中学生までに修得させるそうです。

### 農で生計が成り立てば、雇用も

**田中：**なんとエコビレッジ構想では、人々が経済的に成り立つようにしなければならない。今までは大企業の誘致が一般的だったけれど…。私は南砺市に農林水産業の社長を増やしていきたいと思っています。そうすれば雇用も生まれる。その鍵となるのは、経験と知識のあるお年寄りの人たちと、いかに協力していけるか、だということです。

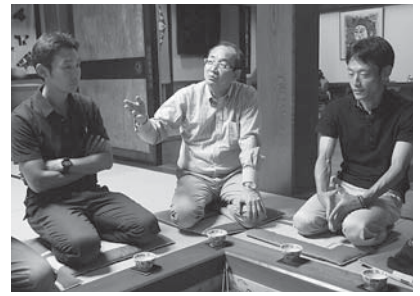
**吉田：**富山県は米農家が一番多いですよ。でも、将来の担い手や面積が確保できていないのが現状です。

米作りをしたい人ができる仕組みをつくるべきだと思います。

**田中：**法制度を変えなければ。それが我々の仕事だと思います。

もともと集落営農は、各戸の独立を支えることが目的だったはず。今の組合などを活かしながら、仕組みづくりを考えたいですね。

私の故郷の利賀村では、土地がせまいので、少しの量しか作物を作りません。しかし、息子たちは農業をする気にならず、担い手が減っています。



**坂井：**私の集落は、(米の)乾燥機もあるので、まだ収益も良いほうです。

**田中：**山間部の取り組みに関して思うのは、地域活性化のために人を呼びよせるには、まず産業を作ることからではないかと。

例えば、岩魚の養殖やそうめん、うどん作りが今も残る産業ですよ。30～40年前、祖父が、「若い者を連れてくるには仕事や」と言っていました。利賀村ですぐできるのは農業なので、高冷地野菜や、なめこもできるかもしれません。

**吉田：**中国産のしいたけが減ってきたので、キノコ作りは良いと思います。土地もありますね。

**橋爪：**農業という第1次産業において、若い人たちは南砺市に仕事がないと思っているようです。高校生と語る会に参加し、園芸高校の子たちに、「農業を仕事としてやりたい人？」と聞くと、数名しか手が挙がりませんでした。

この対談のメンバーも農業高校の出身者はいないのでは？

**田中：**若者といえば、年々田んぼに子どもとおばさんがいる風景を見なくなりましたよね。3世代で草を刈っている姿とか。田んぼに親が出てこないから、子どももいないんでしょうね。

**橋爪：**専業農家の坂井さん家は、子どもも畑を走り回って、日焼けで真っ黒ですけどね。うちの子は真っ白(笑)。



坂井 晋

ログログファーム。4世代家族の専業農家として、有機野菜を生産・販売。(南砺市大塚)



石村 修子

千華園。県内一シェアのシクラメン作り、贈答品用のフラワーバスケットの販売など。(南砺市信末)



**田中:** 私が小さいころは、子どもも畑の手伝いをしていました。そういうつながりが学びにもなるのでは。

**石村:** 私は子どもの頃、お手伝いが楽しかったです。

**橋爪:** 自分の小さい頃は、農機具の使い方にしても、「よく見とられ」と親に言われました。今の子どもたちは「来たら危ないぞ」と。

## 次世代の農業と今後の夢

**田中:** 今後、皆さんのような人たちと、メリハリやインパクトのある事業がしたいと思っています。ぜひ意見を聞かせてください。

**石村:** 私はエディブル（食べられる）フラワーづくりに取り組みたいと思っています。

パンにビオラの花を添えたり、アイスクリームにバラの花びらを散らしたり、里山の癒しの風土を活かして、目で楽しめて、心も潤うおもてなしをめざします。

**田中:** いいですね。韓国のハーブ園を参考に、ぜひチャレンジしてほしいと思います。市では、城端線の“常花”線事業を進めているけ

れど、駅周辺で花のレシピを食べられるようにするのは。

**坂井:** 私は、病院や学校給食に野菜を供給する農家を作っていくたいと思っています。供給専門で事業が成り立てば理想です。

これからは、学校給食の現場で、お年寄りの食事も作るような時代になると思います。

**石村:** ワイン作りにも興味があります。「ビオのまち・なんと」というブランド名はいかがでしょう。

**田中:** ぜひ南砺市で葡萄を作っていたきたい。

**橋爪:** 南砺市で、南砺市のものを売り買いできる市場的な機能があればいいと思います。ふくの里だけでなく、南砺市全体でそういった取り組みが充実すれば…。

**田中:** 確かに、野菜直売所や道の駅のように、地産地消の仕組みができると面白いですね。

**石村:** 花いっぱいのまちづくり！花と緑の銀行や、グリーンキーパーも、富山県が一番熱心だと感じます。

**吉田:** 野菜について学べる場所、学校が必要だと思います。ちゃんとした知識を教える場所があれば。

また南砺市には米菓会社が4つもあり、米づくりも盛んなので、米の加工品をもっと作れるのではと。

ビオのまちや米粉製品、パスタなど、いち農家が作るには難しいので、加工専門の機関があってもいいと思います。

**田中:** なるほど。まず南砺市の活動としては、市の農産物のネームバリューを上げたいと思っています。

氷見市は東急ホテルで海産物のキャンペーンを行うが、南砺市は花も含めてほとんどアピールできていないのでは。また、大きな見本市でも、石川県は加賀野菜を紹介しているけれど、富山県は出展すらしていない。県は予算がないというが、予算は作るものだと思います。ぜひ地元の美味しい農産物を全国に知ってもらいたいですね。

本日はどうもありがとうございました。

(平成24年6月28日 吉田剛さん宅にて)

※なんとエコビレッジ構想…自然エネルギー、農業交流、森の循環、産業・文化観光などの地域活性化事業。城端・桜ヶ池エリアからモデル発信する。

## 臨時総会

任期満了(11月27日)に伴う市長選に、2期目を目指して立候補することを表明したことを受け、7月19日(木)福光中央会館5階大ホールにおいて約250名の後援会員を集め臨時総会が開催された。

西村会長の挨拶、武田県議会議員の祝辞に続き、田中幹夫君から2期目へ向けて力強い決意表明があった。岩崎幹事長、窪田副会長の激励に引き続き、吉江地区若手有志より動議があり、出席者全員で再選へ向け「ガンバロー三唱」。利賀を代表して野原麻孝氏から御礼の言葉があり閉会した。その後は和やかに懇親会が行われた。

## 後援会からのお知らせ

### 第4回 YUI CUP パークゴルフ大会

**日時** 9月9日(日) 10:00 スタート  
**場所** IOX-AROSA パークゴルフ場  
**会費** 1,000円 プレー代  
**募集人数** 100名 ※定員になり次第締め切り  
**申込締切** 平成24年9月1日(土)

## 『なんと結いの会 平成24年会費』のお願い

- ・田中幹夫本人が代表を務める唯一の政治資金管理団体です。
- ・会員は個人とします。
- ・年会費は、1口1,000円からとし上限は30口30,000円までとします。  
 ※田中幹夫の政治活動を資金面においてご支援賜りますようお願いいたします。  
 ※会員入会のお申込みについては、田中幹夫事務所にお問い合わせください。

### 振込先

○なんと農業協同組合 西部支店	普通0019676	なんと結いの会
○福光農業協同組合 本店	普通0060584	なんと結いの会
○となみ野農業協同組合 井波本町支店	普通0013388	なんと結いの会
○北陸銀行 井波支店	普通6003170	なんと結いの会
○富山銀行 井波支店	普通2116098	なんと結いの会
○ゆうちょ銀行	00750-9-76579	なんと結いの会(払込取扱票をご利用ください。)

なお、振込手数料は各自にてご負担いただけますようお願いいたします。



## 田中幹夫事務所

〒932-0231 南砺市山見 746-3  
**TEL 0763-82-5296**  
**FAX 0763-82-5294**

田中幹夫オフィシャルサイト

URL ■ <http://www.tanakamikio.jp>

E-mail ■ [office@tanakamikio.jp](mailto:office@tanakamikio.jp)

田中幹夫後援会HP

■ <http://kouen.tanakamikio.jp>

